

昭和 35 年のチリ地震津波

昭和 35 年(1960) 5 月 23 日 4 時 11 分 (日本時間)、南米チリで巨大地震が発生し、津波が約 1 日かけて太平洋を横断して日本などを襲いました。震央から日本の太平洋岸までの距離はおよそ 17,000km ですので、津波は時速約 700km の速さで到達したことになります。徳島県阿南市と高知県須崎市の様子をお伝えします。

■阿南市のチリ地震津波 (徳島県阿南市)

徳島県内で最初にはっきりした海面上昇が確認されたのは、小松島で 5 月 24 日 4 時 10 分でした。周期は 40~50 分で、五波位の後には干潮時間に入り、阿南市橋町を除いて問題にならなかったようです。橋町では海面上昇が正常潮位から 2.5~2.9m で、海岸沿いの路上 1.6m に達し、V 字型の橋湾奥の福井川沿いの大原では約 5m の高さの津波があったといわれています。津波が突然だったため、橋町では全町の 75% が被災し、50% は床上浸水で災害救助法が発動されました。橋町鶴 (くぐい) 地区の和光神社には、昭和南海地震津波とチリ地震津波の潮位を記した石碑が建立されています。<阿南市史編さん委員会編「阿南市史第 4 巻」2007 年、阿南市史編集委員会編「阿南市史」1967 年、徳島県史編さん委員会編「徳島県災異誌」1962 年など>



■須崎市のチリ地震津波 (高知県須崎市)

思いがけずに須崎市で津波の第一波が感知されたのは 5 月 24 日 3 時 40 分頃の様子です。その後、4 時 55 分から 18 時 20 分頃まで十数回、顕著な津波が押し寄せました。津波の高さは、須崎湾口で 2m くらいのもものが湾内で急に高くなり 4.5m 近くにもなりました。須崎市の被害は大間、原町、野見、大谷で大きく、住家の全壊 17 戸、流失 2 戸、半壊 35 戸、床上浸水 617 戸などに及びました。昭和南海地震やチリ地震による度重なる津波を経験し、須崎市では須崎港に防波堤を築くとともに、災害の誘因となった堀川の埋め立てを行いました。その完成を記念して須崎橋に「津波之碑」が建立されています。<須崎市史編纂委員会編「須崎市史」1974 年、須崎市編「南海・チリー地震津波録 海からの警告」1995 年、大家順助編「須崎消防の歩み 第 2 巻 自然災害の記録」1985 年など>

